

第18回

日本防犯設備協会 特別セミナー

日時

平成28年3月1日(火)
13:00 ~ 16:30

場所

一般財団法人 福岡県教育会館
〒812-0054 福岡県福岡市東区馬出 4-12-22
TEL 092-631-4600

13:00 ~ 13:10	協会からの挨拶
13:10 ~ 14:30	「金融機関等防犯カメラシステムの設計基準・解説」について 公益社団法人 日本防犯設備協会 金融基準 WG リーダー 茶之原 大輔 氏
14:30 ~ 14:40	質疑応答
14:40 ~ 15:00	休憩
15:00 ~ 16:20	「放送用先端イメージング技術とその応用」 ～ 8K スーパーハイビジョンと超高感度 HARP 技術を中心に～ 東京電機大学工学部客員教授、メディカル・イメージング・コンソーシアム副理事長 (元 NHK 放送技術研究所 所長) 谷岡 健吉 氏
16:20 ~ 16:30	質疑応答

参加のお申し込み方法 (先着 120 名様)

申込書にご記入の上、当協会宛てに、E-mail または FAX で平成 28 年 2 月 19 日 (金) までにお申込みください。今回は無料なので受講票は送付せず、E-mail または FAX 等で受講申し込みを受け付けたことを連絡するのみにしますので、ご注意ください。

参加費
無料

会場の案内

〈一般財団法人 福岡県教育会館〉

〒812-0054 福岡県福岡市東区馬出 4-12-22
TEL 092-631-4600
<http://www.f-k-k.jp/access.html>

〈交通のご案内〉

- 地下鉄空港線 箱崎宮前 (1 番出口) 下車徒歩 1 分
- 西鉄バス 箱崎バス停より 徒歩 1 分

お車で越しの際

会館裏のコインパーキングをご利用ください。

コインパーキングが満車の場合は事務局までお問い合わせください。



第 18 回日本防犯設備協会 特別セミナー お申込書

公益社団法人 日本防犯設備協会 TEL : 03-3431-7301 FAX : 03-3431-7304 E-mail : hiroshi.ito@ssaj.or.jp

フリガナ 御社名	
部署/役職	
フリガナ お名前	
ご住所	〒
ご連絡先	TEL : FAX : E-mail :
所属等	会員 ・ 防犯設備士 ・ 総合防犯設備士 ・ 地域協会 ・ 一般

※ E-mail または FAX でお申し込みください。所属等の欄に○印をご記入ください。

※ 複数人でお申し込みの場合は、様式自由で人数分の必要事項をご記入の上お送りください。

講演内容



13:10 ~ 14:30

『金融機関等防犯カメラシステムの設計基準・解説』 について

公益社団法人 日本防犯設備協会 金融基準 WG リーダー 茶之原 大輔 氏

講演概要

公益社団法人 日本防犯設備協会は、2015年（平成27年）1月に金融機関に設置される防犯カメラシステムの設置指針となる「金融機関等防犯カメラシステムの設計基準・解説」を策定、公開しました。

本基準は、2004年（平成16年）1月に当協会が策定し、公益財団法人 金融情報システムセンターの「金融機関等コンピューターシステムの安全対策基準・解説書」に採用された「金融機関店舗に設置する防犯カメラの性能基準」に対し、昨今の技術革新による防犯機器の性能向上や犯罪の傾向などを考慮しつつ金融機関等に設置する防犯カメラシステムが満足すべき機能を追加したものであります。

また、当協会が2008年（平成20年）に開始した「RBSS(優良防犯機器認定制度)」の要求仕様・機能を新たに金融機関等に設置される防犯カメラやデジタルレコーダに対して要求することで、十分な防犯機能・性能の確保を狙っています。

今回のセミナーは、基準本体の説明や基準策定背景の紹介の他にも最新の防犯機器によるサンプルビデオの紹介などにより、基準の内容や機器の設置例などを分かりやすく紹介することを目的としています。主な講演内容は下記のとおりです。

1. RBSS（優良防犯機器認定制度）について（日本防犯設備協会顧問 三澤 賢洋氏）
2. 基準策定の背景
3. 基準概要
4. 金融機関等防犯カメラシステムの設計基準・解説について
5. チェックリストの使用方法
6. F A Q（よくある質問）

茶之原 大輔（ちやのはら だいすけ）

株式会社 熊平製作所

1971年生まれ

1995年 九州工業大学大学院 情報工学研究科 卒業

1995年 株式会社 熊平製作所 入社

主に金融機関向けの映像セキュリティ機器開発に従事

その他 公益社団法人 日本防犯設備協会 金融基準 WG リーダー

講演内容



15:00 ~ 16:20

「放送用先端イメージング技術とその応用」 ～ 8K スーパーハイビジョンと超高感度 HARP 技術を中心に～

東京電機大学工学部客員教授、日本大学理工学部非常勤講師、国立研究開発法人海洋研究開発機構招聘上席技術研究員、メディカル・イメージング・コンソーシアム副理事長
(元 NHK 放送技術研究所 所長、元ニューヨーク州立ストーニーブルック大学放射線医学客員教授)

谷岡 健吉 氏

講演概要

8K スーパーハイビジョンは、NHK 放送技術研究所(NHK 技研)が中心となって開発を進めているハイビジョンの 16 倍の 3,300 万もの画素を有する次世代の超高精細テレビである。高い臨場感が得られるこのテレビが 8K とよばれるのは、水平方向に約 8,000 (正確には 7,680) の画素を有しているためである。ちなみにハイビジョンは、水平方向画素数が約 2,000 (正確には 1,920) であるため、最近では 2K ともよばれている。

講演の前半では先端イメージング技術である 8K について、そのシステムの諸元がどのような研究の結果を基に決められたのかを述べる。また国際展開を目指しての海外放送機関などとの研究連携への取り組みや、カメラ、ディスプレイ等の機器の開発状況を概説する。さらに最近注目を集めるようになった 8K の内視鏡手術や顕微鏡手術への応用研究を紹介するとともに、この超高精細技術の今後のセキュリティ分野への展開の可能性についても触れたい。

NHK 技研が開発したもう一つの先端イメージング技術として、超高感度 HARP * (ハーブ) 撮像管を挙げることができる。HARP 撮像管の発明は、 10^6 V/m の強電界動作下のアモルファス(非結晶)セレン光電変換膜がアバランシェ増倍(電子なだれ増倍)によって大きな感度増加を生じるという現象の発見に基づくものである。この撮像管を用いた超高感度 HARP カメラは、放送のみならず、深海探査や、がんの超早期発見を目的とした X 線医療診断など、種々の分野の先端研究に活用されてきた。

本講演の後半では、恩賜発明賞受賞の HARP 撮像管について、その発明の経緯を述べるとともに、下図のような夜間緊急報道での使用例、さらに医学研究やセキュリティなどの放送以外の分野への応用例を画像を用いて説明する。

* High-gain Avalanche Rushing amorphous Photoconductor



全日空機ハイジャック事件夜間緊急報道での使用例。

左側が HARP カメラによる画像

(函館空港、1995 年 6 月 22 日午前 3 時半ごろ) NHK テレビより

谷岡 健吉 (たにおか けんきち)

昭和 23 年(1948 年) 高知市生まれ。

昭和 41 年、NHK 高知放送局に入局。昭和 51 年、NHK 放送技術研究所に転じ、撮像デバイス用のアモルファスセレン系光導電膜の開発研究に従事。昭和 60 年、アモルファス(非結晶)セレン光導電膜のアバランシェ増倍(電子なだれ増倍)による感度増加現象を発見。これを基にアバランシェ増倍型の超高感度撮像管「HARP (ハーブ) 撮像管」を発明。HARP 撮像管の放送での活用のみならず医学やセキュリティ分野などへの応用の研究も推進。NHK 放送技術研究所の主任研究員、撮像デバイス部長、放送デバイス部長(局長級)、所長(理事待遇)等を歴任し、平成 20 年定年退職。

NHK 退職後は、メディカル・イメージング・コンソーシアム副理事長、高エネルギー加速器研究機構協力研究員や国立研究開発法人海洋研究開発機構招聘上席技術研究員などとして、超高感度 HARP、超高精細 8K スーパーハイビジョンの医学、深海探査などへの応用の研究に従事。

東京電機大学客員教授、日本大学非常勤講師。元高知工科大学客員教授、元ニューヨーク州立ストーニーブルック大学医学部客員教授。恩賜発明賞ほか受賞 14 件。博士(工学)(東北大学)。

お問い合わせ

公益社団法人 日本防犯設備協会

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-12-4 第2長谷川ビル 4F / 広報担当部長 伊藤 広
TEL:03-3431-7301 / FAX:03-3431-7304

E-mail hiroshi.ito@ssaj.or.jp ホームページ <http://www.ssaj.or.jp>